

海外安全対策情報
(2017年7月～9月分)

在フィリピン日本国大使館

1 治安情勢

(1) フィリピンにおいては引き続き強盗・窃盗事件や銃器を使った殺人事件が多発している。また、現職警官や偽警官による強盗事件、さらには主要空港の税関職員や保安検査職員による恐喝事件も発生しており、十分な注意が必要である。

特にマニラ首都圏においては、邦人観光客が睡眠薬強盗やタクシー強盗などのほか窃盗・スリ被害に遭う事例が跡を絶たない。

(2) フィリピンにおいては銃規制の緩さから些細なことでも生死にかかわる事態に発展する危険性があることを十分認識し、特に夜間は歓楽街や人通りの少ない裏通りの一人歩きを避ける、万一被害に遭遇した際は無理な抵抗はせず冷静に対処する、口論や争いを避け他人の恨みを買わないよう言動に注意する、など慎重に行動する必要がある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) フィリピン国家警察が発表した犯罪統計によれば、2017年7月から9月までの犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人 2,985件 (うち殺人2,201件, 傷害致死・過失致死784件)
傷害・殺人未遂 7,537件
強姦 1,745件
強盗 3,932件
窃盗 8,405件
自動車盗・オートバイ盗 1,564件

(2) 邦人被害事案

(ア) 8月、首都圏マニラ市エルミタ地区やマラテ地区の観光地や飲食店で睡眠薬強盗被害が発生。片言の日本語で声をかけられ、飲食を共にしたところ、意識を失い、現金や携帯電話を盗まれたり、カードで多額の現金を引き出されるもの。犯行グループは、若い女性、男性から高齢女性まで多様。

(イ) 7月～9月、首都圏マニラ市エルミタ地区やマラテ地区、またマカティ市のレストランや路上等で置き引きや窃盗被害が多発。犯行グループの手口は、①レストラン等で被害者が目を離した隙に鞆や金品等を盗む置き引き、②現金を落とした振りをしたり、エスカレーターで転んだ振りをして被害者の気を引いている間に鞆や金品等を盗むスリ、③路上歩行中につきまとう間に金品をぬすむスリや、④バイクで追い抜きざまにひったくるケースなど多様。

(ウ) 邦人が加害者になる事例も発生。マニラ国際空港出国時にけん銃の銃弾を所持していたことから拘束。けん銃や銃弾、麻薬の所持、女性や子供への暴力は

犯罪であることに留意する。

(3) 邦人以外の被害事案

9月、邦人居住者が多く住むマニラ首都圏のマカティ市においても連続して殺人事件が発生している。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 5月に全島で戒厳令が発出されたミンダナオ地方では、マラウィ市をはじめ各地で、襲撃事件や国軍等治安当局との衝突が発生しており、テロリストのみならず、治安当局、また市民にも多数の死傷者が出ている。

(2) ミンダナオ地方以外においても、都市部以外の地域（主に山間部）で、NPA（新人民軍）と国軍や警察との衝突が発生し死傷者が出ている。

(3) 9月には、マニラ首都圏から100km程度のバタンガス州において、国軍とNPA（新人民軍）との衝突により、一時周辺住民1000人が避難する事態となった。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

特になし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

当地においては、一般的に企業及び個人に対する恐喝、脅迫、誘拐等が少なくなき、日系企業（社員）に対する脅迫事件も発生するなど、進出日系企業関係者は、企業自体及び社員の安全に関し常時注意を要する。特に、NPAは、マニラ首都圏やセブ首都圏などの都市部を除き、地方に展開する民間企業に対して、環境破壊、住民搾取等の名目で「革命税」を要求し、企業側が応じない場合には、企業への脅迫、恐喝等の行為や襲撃等を繰り返していることから、現地採用職員の動向も含め、日頃から情報収集を行うなど十分な注意が必要である。また、首都圏から遠隔地に所在する日系企業では、ASG等イスラム系反政府武装勢力の動向には細心の注意を要する。

以上